

内分泌・代謝学共同利用・共同研究拠点セミナー
Joint/Usage Research Program Seminar

令和4年 12月9日 (金:Friday)

15:00 ~ 16:00

場所：生体調節研究所 1階会議室 and ZOOM ハイブリッド形式
IMCR 1F Conference Room and ZOOM

～ 変異マウスに導かれた研究展開 ～

The Evolvement of My Research Led by Transgenic / Knockout Mice

相賀 裕美子 先生

Professor SAGA Yumiko, Ph.D

国立遺伝学研究所・発生工学研究室
National Institute of Genetics, Mammalian Development Lab.

研究の発展はテクノロジーの進歩に支えられている。ES細胞を用いた逆遺伝学の確立は、マウスを用いた発生学研究を可能にした。逆遺伝学の強みは、その説得力であるが、予想しない表現型が研究の方向を変えることは、よくあることである。実際、私の研究テーマは、よく言えば、多様性に富み、悪く言えば、浅く広くとなっている。最近では生殖細胞の発生分化研究に集中しているが、他にいくつものテーマ、中胚葉形成、心臓形成、体節形成に取り組んできた。今回のセミナーで、それぞれのテーマに直面して、どのように研究を発展させたか、遺伝子ありきで展開する危険性とその魅力について紹介したい。

相賀先生は、今から丁度30年前に日本で初めてノックアウトマウスの作製に成功させた研究者です (Saga Y, et al Genes Dev 1992, タイトルが絶です)。その後、相賀先生はこの技術をコアコンピタンスにして研究室を主宰し、上記した多様な研究テーマの全てにおいて基盤SやCRESTなどの大型予算を獲得し続けるなど近代の発生学を牽引されてきた著名な先生の一人です。no phenotypeも含め、想定外の表現型が出た際の研究に取り組む姿勢は学ぶ点が多く、実際に彼女の研究室の卒業生は、大学教授、理研チームリーダー、国立研究所の部長・室長として幅広い分野でPIとして活躍しております。将来研究者を目指す(悩んでいる)学生はもちろんの事ながら、若手研究者、さらにはPIの先生方にも刺激になる話を拝聴できると思っておりますので、どうぞ皆様のご参加をお待ちしております。

参加登録方法：12月9日正午までに所属・氏名・セミナー開催日を下記のウェブサイトで入力 (QRコード) し、お申し込みください。ZOOMミーティングURLをお知らせします。

Resistration: Access the following website (QR code), and input your information (name, affiliation, and e-mail). The URL for ZOOM meeting will be sent.

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSel3YU11KHtuTDbemMZ-gFywHfUiwTVUuzjKoCzW6w8pvlkoyQ/viewform?vc=0&c=0&w=1&flr=0>



連絡先：佐々木 伸雄 生体調節研究所・粘膜エコシステム制御分野 (内線 8830)
発表言語：日本語 (Japanese Only)